



VR 認知症とは

- 、認知症になると想いを表に出しづらくなり、代わりに起こす行動が“周囲には理解できないもの”と映ってしまうことが多くあります。ご本人の視点を体験することで理解を深めることを目的としたプログラムです。

複数の認知症の症状を本人視点で体験し、本人の視点に立ったときにその状況で何を感じ、何を思うのかを体験します。想像だけでは感じる事が出来なかった感情を体験した後に、同時に体験している参加者同士で感想を述べ合い、認知症がある方を取り巻く環境をどの様に変えることが状況改善につながるのか意見を出しながら認知症がある方を取り巻く問題の本質に迫るプログラムです。

※「VR認知症」は、バーチャルリアリティ(VR)の技術を活用し、認知症の中核症状を一人称で体験するものです。

【VR体験コンテンツ】



認知症の中核症状の1つを体験。いままで接する時に「どうしてそんなに混乱しているの?」と胸に落ちなかった認知症がある方への想像力を養います。また認知症は単なる記憶障害だけでは無いことを体験することができます。



レビー小体病当事者の樋口直美さん原作・監修。レビー小体型認知症の特徴である「幻視」の世界をありのままに伝えます。認知症の概念が変わります。



認知症があってもなくても誰もが一度は経験がありそうな「困った体験」から認知症への「無意識の偏見」に気づくことができるコンテンツです。「認知症」を取り巻く本当の問題とは何か?を考える内容です。

「認知症を学ぶ」のではなく「認知症を体験する」ことで認知症のある方への理解を深めることを目指しています。